

園だより あおいそら 6月号

令和6年5月15日（水）熊本大学教育学部附属幼稚園



♪園長のコラム♪

おもしろくなければ・・・遊びではない

5月も後半に入りました。そろそろ、梅雨のシーズンになります。しかし、お子さん方は、元気に新しい出会いを楽しみ、新しい遊びに挑戦し、少しづつ自分の世界を広げているようです。

さて、

『遊びは、「おもしろさ」を追求する活動である。子供は、遊びを通して発達する存在である。それゆえ、子供は「おもしろさ」を追求する過程で、自分を発達させる存在である。』

～保育・幼児教育研究者：加藤繁美先生～

あるコラムの中で加藤先生がこのように書かれていました。おもしろくなければ、遊びではない。子供さん達が「何？おもしろそう」と思わなければ、そちらを見ようともしません。子供たちの心もからだも嬉しくなってわくわく、ドキドキさせるような遊び。これは、私たちが望む、幼稚園で展開される理想的な遊びです。子供さんたちは、そのおもしろさに引っ張られながら、感覚を育て、いろんなことを獲得し発達していく。附属幼稚園では、そんな姿を大切にしています。

3歳児さんは、毎日、園内で新しい場所と物を発見して世界を広げています。ある日、3歳児さんが年中組のポーチ前に置いてあったままごと用の鍋を見つけました。二つ、両手に持ったそのフライパンを合わせ、「カンカンカン・・・」と大きな音を鳴らし始めました。すごい音が出ました。3歳児さんは、回りを見渡して、しばらく鳴らしながら、周囲の子供達の反応をじっと見ていました。でも、周りにいる、年中組の子供達も、年長組の子供達もじっと見るだけでニコリともしてくれませんでした。3歳児さんは、それが分かると、すぐに二つの鍋を籠の中に返しました。「おもしろそうだな」と思って試しに遊んでみたけれど、3歳児さんは、その遊びが楽しい遊びではないと気づいたのですね。遊びを続けていくには、楽しさや心地よさが必要なのです。それには、周囲の物や環境、共感してくれる、受け止めてくれる友達や教師。自分の興味関心の大きさと要素はありますが、私たちは、子供達の心を動かし続ける遊び、そんな遊びを経験させてあげたいと思います。

さあ、附属幼稚園の子供さんたちは、幼稚園での生活が少しずつわかり始め、遊びが楽しくなることでしょう。友達とかかわり合いながらたくさん楽しめや嬉しさがもっともっと広がることでしょう。

お迎え訓練お世話になりました

先週、行われました避難訓練とお迎え訓練におきましては、保護者の皆様のご協力ありがとうございました。あってはならない災害なのですが、いざというとき、どんなお迎えをするのか、（ルート、方法、服装など）お迎えには、時間がかなりかかります。ご家族でしっかりと話しあってください。